

香川県教育施策推進協議会（第3回会議）における主な意見

1 開催時期、開催方法

令和8年1月に書面開催

2 議題

子どもからの意見の聴き取りに向けた手法について

3 主な意見等

- 低学年では入力に大人の力を必要とする子どももあり、そのような場合は、手伝う大人に注意を払ってもらう必要があるので、『アンケート入力における注意』（意見の誘導をしない、など）を必ず添付してもらいたい。
- 選択肢⑥に「外国にルーツのある人と交流したり」という表記があるが、この表現が言外に、「アンケートに答える生徒はみな日本人」という前提にあると感じた。答える生徒の中には、外国にルーツがある人が一定数存在すると思うので、その生徒が疎外感を感じない、答える人の国籍やルーツにあまり焦点が当たらない表現に変えてはどうか。
- アンケートの説明の中で、子どもたちに“皆さんの意見が、今必要とされている”ということをしっかり伝えるべき。
- 特別支援学校をまとめて一つにしていることに、違和感がある。小学部、中学部、高等部の区分も含め、回答を求めた方がよい。
- オンラインが使えない家庭環境や何らかの事情で学校に行くことができない子どもが意見を伝える機会や手段も検討しているか。
- 小・中・高・支援学校の児童生徒全員への聴き取りを実施することについて、目的に疑問がある。特に、教育委員会からのアンケート調査等の多さが問題視されていて、負担を軽減してほしいという現場の声が多い中、厳しい。学年や学校を抽出するなど、数値の優位性が確保できる範囲で学校現場に負担がかからないように配慮してほしい。
- 小学校1、2年生はこの表現だと全く理解できないと思うので、「やさしい版」を作成する必要がある。選択肢も小学生なら5択、中学生なら10択くらいが適正ではないか。
- 「AI講習および対話型ヒアリング情報収集および統計レポート手法」を提案する。
- 子どもの「ニーズを把握する」ために、どのような内容を、どのように問いかけたらよいか、検討が必要。
- 異なる分野が混在し、設問が羅列されている。子どもたちにとって15項目から3つ選ぶことは難しいと思う。設問を分類して大きな項目を設け、項目ごとに1つ選ぶなど、選び方を検討したほうがよい。